

# スターチス県オリジナル品種における育苗温度と収量

和歌山県農業試験場暖地園芸センター 主査研究員 宮前 治加

## 1 はじめに

スターチス・シヌアータは、一定期間の低温に遭遇すると花芽分化しますが、低温遭遇した幼苗が再び高温に遭遇すると、花芽分化が起こらなくなり、著しく開花が遅延します。このため、種子系品種では、種子を冷蔵処理した後、高温を回避するために冷涼地やクーラー施設で育苗が行われてきました。栄養繁殖系品種がほとんどになった現在もクーラー育苗が行われていますが、近年の品種ではクーラー育苗をしなくても収量が確保できる可能性があります。ここでは、県オリジナル品種について、クーラー育苗苗となりゆき温度（常温）下で育苗した苗の収量を比較した結果をご紹介します。

## 2 試験方法

表 1 に示すオリジナル品種 8 品種を供試しました。5℃で 24～28 日間低温処理した発根培養苗（写真 1）を 7.5cm ポリポットに直接鉢上げし、クーラー施設（昼間 25℃/夜間 15℃、遮光率 80%）およびなりゆき温度下のガラス温室（遮光率 65～70%）で 42～43 日間育苗しました。

定植は 9 月 7 日に行い、定植後約 2 週間は抽苔花茎を除去して株を養成しました。冬季は最低夜温 3℃で管理しました。なお、試験は 2015 年と 2016 年に実施しました。

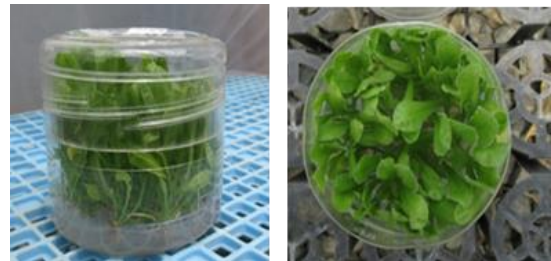


写真1 鉢上げ前の発根培養苗

## 3 結果

育苗施設内の気温は兩年ともクーラー区ではほぼ設定温度どおりに推移し、平均気温は 20.3℃でした。一方、なりゆき温度区の平均気温は、2015 年は 29.6℃、2016 年は 30.6℃とクーラー育苗区よりも 10℃程度高くなりました。定植後約 2 週間後の抽苔本数は、‘紀州ファインバイオレット (FV)’、‘紀州ファインパープル (FPu)’、‘紀州ファイングレープ (FG)’ では、なりゆき区がクーラー区よりも少なくなりました（表 1）。他の 5 品種では、両育苗区の抽苔株率や抽苔本数は同等と

表1 スターチスにおける育苗管理温度と株養成終了時の抽苔

品種	育苗温度 管理	抽苔株率 (%)	抽苔本数 <sup>2</sup> (本/株)
紀州ファインバイオレット (FV)	クーラー	100.0	3.6
	なりゆき	75.0	0.8
紀州ファイングレープ (FG)	クーラー	100.0	1.2
	なりゆき	56.3	0.6
紀州ファインパープル (FPu)	クーラー	100.0	2.6
	なりゆき	75.0	0.8
紀州ファインラベンダー (FL)	クーラー	100.0	6.6
	なりゆき	100.0	5.3
紀州ファインブルー (FB)	クーラー	100.0	3.8
	なりゆき	100.0	3.3
紀州ファインイエロー (FY)	クーラー	100.0	7.3
	なりゆき	100.0	6.1
紀州ファインパール (FP)	クーラー	100.0	3.6
	なりゆき	100.0	3.9
紀州ファインピンク (FPI)	クーラー	100.0	2.3
	なりゆき	100.0	2.4

注) ‘FV’、‘FL’、‘FY’ は 2015 年 9 月 7 日、‘FG’、‘FPu’、‘FB’、‘FP’、‘FPI’ は 2016 年 9 月 7 日に定植、定植後 2 週間株養成のため抽苔茎を除去した  
<sup>2</sup>株養成終了時までには抽苔した抽苔茎の総本数

なりました。しかし、‘紀州ファインピンク (FPi)’ のなりゆき温度区では、抽苔花茎の除去を終了した後、草勢が旺盛となり、抽苔本数が著しく少なくなりました (写真 2)。



写真 2 ‘紀州ファインピンク’ の生育状況  
左：なりゆき区、右：クーラー区、2016 年 12 月 12 日撮影

‘FV’、‘FG’、‘FPu’ では、総切り花本数が両育苗温度区で同等以上でした (図 1)。また、

‘紀州ファインラベンダー (FL)’、‘紀州ファインイエロー (FY)’、‘紀州ファインパール (FP)’ のなりゆき温度区では、年内の切り花本数がクーラー育苗区よりも少なくなりましたが、1~3 月の切り花本数が多くなり、総切り花本数はなりゆき温度区がクーラー育苗区より 0.4~

1.5 本少ない程度となりました。一方、‘紀州ファインブルー (FB)’ および ‘FPI’ は、なりゆき温度区の総切り花本数は、クーラー育苗区よりもそれぞれ 2.5 本、5.4 本少なく、大幅に減収しました。

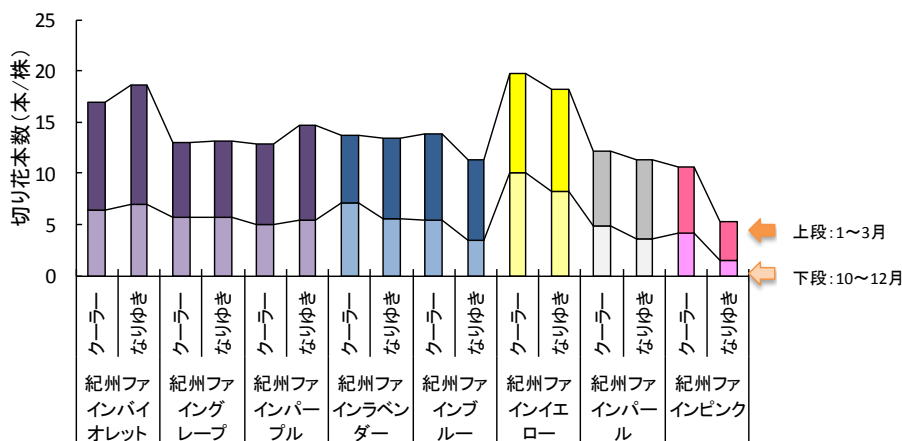


図 1 育苗温度と県オリジナル品種の切り花本数

注) 2015 年 9 月 7 日定植：‘FV’、‘FL’、‘FY’、2016 年 9 月 7 日定植：‘FG’、‘FPu’、‘FB’、‘FP’、‘FPI’、調査は各年 3 月 15 日まで

#### 4 まとめ

オリジナル品種をなりゆき温度下で育苗すると、紫系 ‘FV’、‘FG’、‘FPu’ の 3 品種は初期の抽苔が遅れるものの年内および 3 月彼岸までにクーラー育苗苗と同等の収量が得られました。また、‘FL’、‘FY’、‘FP’ の 3 品種は年内の収量がやや少なくなりますが、大幅な収量低下は認められませんでした。このことから、これら 6 品種は、クーラー育苗を必要としないなりゆき温度での育苗が可能であると考えられました。しかし、‘FB’ と ‘FPI’ の 2 品種は、クーラー育苗をしないと総収量が大幅に低下するため、なりゆき温度での育苗は不適と考えられました。スターチスの抽苔・開花は気象条件による影響が大きいと考えられるため、現在、より高温となる 8 月下旬の定植でも安定して収量が確保できるかを確認しています。